

## 第13回 東日本大震災支援全国ネットワーク 常任世話団体会 議事録

1. 開催年月日：2012年3月16日（金）
2. 開催場所：日本NPOセンター 会議室
3. 出席者：総数6名（事務局を除く）

### ◇ 出席代表世話人（2名）

- 栗田暢之 代表世話人（NPO法人 レスキューストックヤード）
- 田尻佳史 代表世話人（認定NPO法人日本NPOセンター）

### ◇ 出席常任世話団体（4名）

- 池本修悟 NPO法人 NPO事業サポートセンター
- 山口誠史 認定NPO法人 国際協力NGOセンター
- 田島誠 認定NPO法人 国際協力NGOセンター
- 小野実 公益財団法人 日本YMCA同盟

### ◆ 欠席常任世話団体（8団体）

- NPO法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
- 社会福祉法人 中央共同募金会
- 東京災害ボランティアネットワーク
- 公益財団法人 日本財団
- 公益社団法人 日本青年会議所
- 日本赤十字社
- 公益財団法人 日本YMCA同盟
- 「広がれボランティアの輪」連絡会議

## 4. 議事

### 【議題1】報告事項

#### 現地会議について

2、3月で現地会議を開催した。結果として、四半期に1回のペースで開催したことになる。予算は前回30万程度、今回は調整を早目にしたため半分程度

に圧縮できたかと思っている。

参加者の層として今回は企業関係者も多かったが、全体的に県外の団体の参加が多い。被災県内で新たな方や地元で根ざした活動をしている団体参加が少ない。そういう層のかたを呼べるよう、今後は企画を組み立てたい。

### **広域避難者を支援する団体へのアンケートについて**

これまでウェブで情報収集を進めてきた。結果、避難者支援をしている方々は想像以上に多くいることが判り、まずはしっかりと基礎情報を収集したいと考え、アンケートの調査実施している。回答期日は31日だが、4月以降も引き続き調査をしていきたい。アンケートを通して団体との接点を増やしていきたい。ブロックごとに交流会など設けていく計画をしている。

### **設立一周年イベント（330）について**

先日、復興庁の松下副大臣を訪ねた。ごあいさつをいただきたいとおねがいした。広域避難に関連してたずねたが、330については郡政務官か、平野大臣か調整しましょうと回答をいただいた。一方で広域避難に関してはあまり手が付けられていない状態で、福島県庁にも県外避難者支援チームはあるがあまり人数がいらない小さな部署で、県内の対応をするだけで精いっぱいだったのが実情。6万人のひとがこれまでどういう生活をしてきたかということが実はだれも把握していない。福島大学や関西学院大学がアンケートを支援者に行っているが、200団体中50くらいの回答でしかない。支援者側のネットワークづくりはまったく急務な課題なので、330ではしっかりしたネットワークをつくらうというのがクローズにした意味でもある。ただクローズだけではもったいないので、オープンのところでもディスカッションをして共有する。JCNとしては被災3県に注力していきたいが、広域避難のことについてもしっかりかわりましょうという宣言の日でもあるという位置づけでいる。

### **会計について**

固定費はぎりぎり。事業費の確保が課題である。広域避難については、ボラサポを申請中。ジャパンソサエティについて人件費は含まれないのでその分の確保は必須。

### **ウェブサイトについて**

3.11 メッセージを、代表世話人に日本語文、国際チームに英語版を作成した

だき、配信した。同時にウェブサイトのリニューアルした。活動量が多いが、ウェブサイトの情報量が少ない。どんなコンテンツをどのように発信していくかが課題。

## 【議題2】 検討事項

### 事項1. 来年度の事業計画案について

(事務局 A) :

取り組みの概要はおおきく2つ。1) ネットワークでつなぐ活動、2) ネットワークづくりに必要な活動。ネットワークでつなぐための情報発信と役立つための情報収集は何なのかを、もう一度整理したい。

組織・人員計画は事務局としてもいろんなところと連携してネットワークを組んでいかないと概ね網羅できないなと感じていて、そのためのアクションをとりたい。

(出席者 B) :

組織として動くためにはプロセスは大切。全体としてどういう方針で行くのかを意思統一しておいたほうがいい。代表世話人と事務局で特に話して指針を示すほうがよい。プレスト的に行うのは難しいので、事務局の中でよく話して、たとえば330で核になる方向を示すようにできたらいいのではないかと思う。

(出席者 C) :

正式な事業計画は5月の総会だが、総会に諮る前に330で問いかけをして、他のセクタの方と相談していく。広域避難は大きな柱になると思う。

(出席者 D) :

支援者はあくまで代弁者。発信の方法を工夫することも必要。地域を尊重しながらどうやって横につなげていくか。これから風化はどんどん進んでいくので大切なことはしっかり伝え続けていきたい。

### 事項2. 除染ボランティアについてのガイドライン案について

除染に関わるボランティアの議論が各方面からあって、NGOなども含めて勉強会をクローズで行ってきた。3月初旬には指南書のようなものがつくればという趣旨で、合意形成ふくめオープンな意見交換会をした。そのあとタスク

チームという形式でガイドラインのたたき台を作成中。

意見交換会では合意形成が取れたと思ったが、それに対する認識の違いなどもあり、最終的にはガイドラインを作りましょうということで作業をすすめている。23日には結果をオープン場で確認する予定。4月5日に記者会見。

JCN がというより、この件にかかわったメンバの連合体という形でまずはウェブで公開。「ガイドライン」「除染ボランティア」という言葉自体も推進に見えるのではないかという配慮のため公開方法を検討中。一方で、除染が大切というよりは福島の人への寄り添いの1つとして除染ということがあるが、それ以外の活動もたくさんあるのでその要素も盛り込んでいこうとしている。

### **事項3. 外務省国際協力局「大規模自然災害のためのハイレベル国際会議」について**

外務省の国際協力局から、7月3日、4日に仙台で国際的な防災会議「大規模自然災害のためのハイレベル国際会議」を行うとの話があった。そこで海外から多くのゲストを呼ぶが、国内のNPO・NGOにもサイドイベントに協力してもらえないかという打診があった。場所は仙台国際会議場。2日目の1日半から2日くらいブース展示、セミナー、シンポジウムなどどうですかとの話。ぜひ市民社会として参加していただきたいとのことだった。JCN としての参加可否を検討したい。

## 5. その他

次回の常任世話団体会は、後日、事務局で調整する。